

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価シート

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領域	主要課題及び目標	施策項目	評価				
			達成度	主な取組状況	課題と問題点		
新たな時代をたくましく生き抜き、本町の発展を担う子どもを育む学校教育の推進	学校、家庭、地域が一体となって支えていく取組の推進	「学びの共同体」を基盤としながら、多様な見方・考え方を大切にし、変化を前向きに受け止め、主体的に課題を見つけ協働して解決できる能力の育成	保護者や地域の関係者の意見を学校経営に反映し、地域の方々が学校経営に参画する学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の立ち上げ。	上ノ国小	○	保護者、地域の関係者からの多くの意見を頂いている。それらを学校経営の改善等に活かしていかなければならない。	地域と一体となった学校づくりという点で、保護者や地域との関係者と熟議を行うという点では、若干課題を感じる。併せてコミュニティスクールとは何かという点についても、参加者のズレが課題である。
				河北小	○	上ノ国町としての学校運営協議会（CS）を立ち上げ、2回実施できたことは一歩前進である。	以前の学校評議員がそのままメンバーとなっているケースが多いようだが、協議会のメンバー構成を再検討してはどうか。 他の先進地域の情報を共有するなどして短期・中期のビジョンやCSの意義について改めて整理し、再確認するべきではないだろうか。
				上ノ国中	○	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を通して、学校の活動のようすを交流することができた。	学校運営協議会が配置され、今後の動きがどうのようになっていくのか。
				総合評価	○	今年度、学校運営協議会を立ち上げ、会議を2回開催することができた。	学校運営協議会の趣旨について、学校を含め委員間において生じている認識の差異を解消する必要がある。 協議会の運営について、運営方法や実施内容などに対する委員の満足度が低いことから、より一層効果的な運営方法を検討する必要がある。 委員の構成について、保護者の割合が低いことから、保護者の意見を反映されやすくするため構成割合を見直す必要がある。 学校運営に関する地域住民等の関わりについて、従来の取組内容及び実績の見える化を進め、議論の際の基礎情報の充実を図る必要がある。
地域の未来を担う児童生徒の夢や希望を育てる教育の充実	地域と一体となった教育を進める上ノ国高校と小中学校の連携と接続の充実を図り、地域の未来を担う児童生徒の夢や希望を育てる教育の充実に対する支援。	地域と一体となった教育を進める上ノ国高校と小中学校の連携と接続の充実を図り、地域の未来を担う児童生徒の夢や希望を育てる教育の充実に対する支援。	上ノ国小	○	学びの共同体「推進部会」、「連携部会」での活動計画のもと、具体的な取り組みが行われてきた。	接続の充実と考えたときに、高校で力を入れている英語教育が、小中学校では、そこを意識した取り組みにまで至っていないと感じる。	
			河北小	○	上ノ国高校生を受け入れる、インターンシップやピアサポート授業によって、児童生徒間の交流ができた。 上ノ国高校生の海外研修報告会に高学年が参加し、生徒の報告内容に触れることで、児童が将来に向けて希望をもてる機会となった。	教員間及び児童生徒間での交流の機会、または合同的な活動がもう少しあれば、と感じている。	
			上ノ国中	○	上ノ国高校と連携をし、車いすラグビー体験、上ノ国高校講話会、ニュージーランド報告会を行った。また、学びの共同体の事業として、授業交流会や幼児・児童・生徒実態交流会を実施した。 町内の事業所の協力によって、職場体験学習を行うことができた。	中高の連携はできているが、地域とともにある学校という面では、地域の声を聴いたり、反映させたりすることが必要。	

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価シート

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領域	主要課題及び目標	施策項目	評価		
			達成度	主な取組状況	課題と問題点
			総合評価	○	<p>学びの共同体による活動及び特色ある学校運営を目的とした上ノ国高校に対する各種助成を通じ、学校教育の充実・発展を図った。</p> <p>学びの共同体の構成校である上ノ国高校の存続に向けて、より一層特色化や魅力化を進め、入学者を確保していく必要がある。</p>
学ぶことの楽しさ、わかることのうれしさを実感できる教育の実現を目的とした各領域における指導の重点	〔働き方改革〕	「上ノ国町アクション・プラン」をさらに推進させ、子どもたちの学びのために、教員も限られた勤務時間の中で最大限の効果をあげる働き方についての検討。	上ノ国小	△	<p>定時退勤日の設定等も含め、教職員の意識は高まってきている。また、職場では、補欠体制も含め、気軽に休める体制を整えている。</p> <p>個々の教職員の力量に頼った学校経営が行われていることが課題である。そのため、特定の教職員の働き方改革が進んでいない。</p>
			河北小	○	<p>「校内コア委員会」による業務改革提案、定期的な定時退勤日の設定、超過勤務に係る勤務の割り振りの活用などにより、教員の意識改革が図られた。</p> <p>メール内容の精選をお願いしたい。 R6導入予定の校務支援システムに期待したい。</p>
			上ノ国中	△	<p>勤務時間の管理で超過勤務時間の教員それぞれが把握することができた。遅くなる場合には、管理職に報告することである一定時間以上超過することは減った。</p> <p>部活動の地域移行がどのように進められていくのか不安である。具体的な取組（ブラッシュアップデーなど）の実施。</p>
			総合評価	△	<p>学校生活で不便さを抱える児童生徒に対する補助を行うため、特別支援教育支援員を配置し、教員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備を行った。 全教職員の校務用パソコンを整備し、情報の共有化及び業務の効率化を図った。 コミュニティ・スクールを導入し、学校を応援・支援する体制づくりを推進した。 部活動の地域移行に係る導入準備を行った。</p> <p>教職員の時間外在校時間について、校務支援システムの導入を図るなど、より一層の縮減を進める必要がある。 校務系端末について、学校から動作の遅さが指摘されていることから、記憶装置のSSD化や機器の更新を進める必要がある。 檜山教育局からのメール処理について、教育委員会において精選を進める必要がある。</p>
	〔ICT教育〕	ICTを効果的に活用し、教員が「教える授業」から、子どもたちが学習への興味関心を高め、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善と、教員のICT活用技術の向上及び学習支援に対する取組み。	上ノ国小	△	<p>授業におけるICT活用は進んできている。子どもたち自身が主体的になる授業づくりについては、校内研修等を活用しながら研修を深めてきた。</p> <p>次年度端末の更新の時期であると思うが、端末が古くなり、使いづらさが出てきている。併せて、どのような授業づくりのためにどのようなアプリ等が必要か、さらに、より効果的な活用と考えたときの、家庭への持ち帰り時のWiFi環境等、計画とその実施に向けた具体的な動きを再確認しなければならない。</p>
河北小			○	<p>3年生以上では毎日タブレットをいずれかの教科で活用しており、先生方が子どもたちの興味・関心を高めるための教材研究に励んでいた。低学年については学年の実態や個の状況に応じた活用の仕方がされていた。 研究部による「校内ICT活用研修会」を実施し、より実践的な活用の仕方を学ぶことができた。 滝野さんの巡回により、ICTの環境整備が十分に行われた。</p> <p>ICTを効果的に活用した授業で学力の向上が期待できるが、情報の信頼性の確認、使用頻度や姿勢の乱れによる視力低下等の影響など、活用方法に配慮が必要である。 校外でのICT研修会は数多くあれど、先生方が余裕を持って参加する機会が確保できない。 デジタル教科書の教師版の導入を全教科で望む。</p>	
上ノ国中			○	<p>ICT関係を得意とする教員が赴任し、授業や校務でのICTの活用が広がった。</p> <p>どのような活用が効果的か精選しなければならない。</p>	

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価シート

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領域	主要課題及び目標	施策項目	評価			
			達成度	主な取組状況	課題と問題点	
			総合評価	○	授業支援ツールやデジタルドリル等のICTを活用し、児童生徒による学習への興味関心を高めることができたほか、効率的・効果的な授業を行うことができた。 また、上ノ国中における授業の効果的な取り組みを進めるため、武道場に学習系ネットワーク回線を増設した。	学習系端末について、落下による物損や経年劣化等により、予備数に余裕がないことから、適切な修理及び予備品の新たな確保が必要である。
	[幼児教育]	幼児教育における「教育の始まり」としての重要性を踏まえ、保・小の架け橋期のスタートカリキュラムの実践や、保育士と教員との連携接続の強化。	上ノ国小	○	連携強化には至っていないが、保・小の交流や引継ぎ等も丁寧に行われてきた。	幼児教育について小学校の教員がより深い知識をもつ必要があるのではないかと。幼児期の終わりまでに育ててほしい「10の姿」について、小学校の教員はまだ理解が少ないように思える。
			河北小	△	保小連絡協議会での実態交流はできた。	相互の教員が児童の実態を見る機会をもっと必要。その上で、子どもたちの課題や目指す子ども像がイメージされていくのではないかと。
			総合評価	○	学びの共同体による活動により、保育所参観や幼児・児童・生徒実態交流会の開催等の取組を行うことができた。	子どもの成長を切れ目なく支える観点から、保小の円滑な接続を一層意識し、架け橋期のカリキュラムを作成する必要がある。
	[外国語教育・活動]	外国語専科指導教員（小学校のみ）と外国語指導助手の配置により、外国語を通じてコミュニケーション能力を育む授業づくりと、ICTを活用しながら国際理解の意欲を高める指導の工夫。	上ノ国小	○	外国語専科指導教員とALTとの連携も密に、子どもたちも楽しく外国語活動等が行われていた。	町内において、特に小学校では、巡回教員も含めた外国語専科は必要と考える。上記の質問にも回答したが、上ノ国高校での英語教育の取組等の話を聞くと、町内の小学校においても、専門的知識のある教員と外国語の充実を図る必要があるのではないかと。
			河北小	◎	外国語専科指導教員の配置は効果的であった。ベテラン層の教員によっては教員養成大学出身であっても「外国語教材研究」を履修しておらず、授業づくりに苦労しているのが現状である。	R6年度は配置されなかったが、再び配置されることを望む。
			上ノ国中	○	外国語指導助手が家族に紹介したものを生徒にも紹介したり、帰国したときに実体験を生徒に伝えたりし、意欲を高める指導の工夫を行った。	英語の学習意欲の高まりまでには至っていない。
			総合評価	○	小学校においては、外国語専科指導教員による授業が行われており、外国語教育の充実を図ることができた。 外国語指導助手の活用により、英語発音や国際理解教育の向上に資することができた。	小中高と一貫した英語教育の枠組みを構築する必要がある。
	[児童・生徒指導]	望ましい人間関係を築く力を育むとともに、困難な時代を生き抜くための資質・能力と他者を導ぶ心の育成、いじめや不登校の未然防止を図るためのスクールカウンセラーの配置。	上ノ国小	○	些細なことでも、担当分掌や該当学年担任と連携した取り組みが行われてきた。	本校では、問題が起きてからの対応も大切だが、未然防止という点をさらに重点的に取り組まなければならない。また働き方改革等で打ち合わせ等が少なくなっているが、課題や問題を教職員全体で共有するという点でも課題が残った。

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価シート

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領域	主要課題及び目標	施策項目	評価			
			達成度	主な取組状況	課題と問題点	
	[安全教育]	地震や津波、台風など自然災害から命を守る防災教育の充実と防犯、交通安全に対する意識の向上、また、ネット犯罪やトラブルに巻き込まれることが心配される情報モラル教育の実践、上ノ国高校生の協力によるピアサポート活動の支援。	河北小	◎	全校での活動や異学年交流など、教育課程全体を通じた道徳教育の充実が図られており、豊かな心が育まれている。そのため、スクールカウンセラーへの相談はほとんどなく、授業参観を通して意見をいただくにとどまっている。	特になし
			上ノ国中	◎	生徒会主催の全校交流会などを実施し、いじめや不登校の未然防止に努めた。また、悩みなどを話せる機会として定期的に教育相談を実施した。スクールカウンセラーによるPTA研修会を実施したり、給食や昼休みに生徒と交流できる場を設定した。その結果、悩みを抱えている生徒が相談する機会ができた。	どの学年もスクールカウンセラーとふれあう機会を増やし、より相談しやすい環境づくりが必要。
			総合評価	◎	各校において、道徳教育の充実、教員間の連携強化、生徒間交流の実施、悩みを抱える生徒に対し相談の場を設けるなどし、いじめや不登校の未然防止に努めた。 また、スクールカウンセラーを配置し、学校におけるカウンセリング機能の充実を図った。 その他、いじめ・不登校対策委員会を開催し、問題解決を図るための具体的な指導対応方針や必要な諸対策等について検討協議を行った。	いじめについては、積極的な認知に努めるほか、児童生徒や保護者の抱える悩みを受け止めるため、引き続きスクールカウンセラーを配置する。
			上ノ国小	○	上ノ国高校によるピアサポート授業も今後予定されている。また交通安全についても様々な場面で、子どもたちと活動を進めてきた。	日常的な訓練等だけではなく、子どもたち自身が、自分の命を守るために、自分の力でしっかりと考え行動できる力の育成が大切だと感じる。
			河北小	◎	避難訓練（地震津波・火事）、交通安全教室、不審者対策教室、立ち止まり訓練、シェイクアウト参加、町保健師による薬物乱用防止教室、全校集会におけるテーマ別啓発活動（クマ被害、小学生の交通事故、中須田地区ハザードマップなど）で自らの身を守る取組の充実が図られた。 3年生による河北小近辺の危険箇所マップ発表会を実施した。 上高生による「ピアサポート授業」を実施し、相手に対する言動についてSSTを行った。	特になし
			上ノ国中	○	地震・火災を想定した避難訓練を2度、実施した。シェイクアウト訓練にも参加した。また、外部講師を招き、薬物乱用防止教室や情報モラル教室を行った。	防災学校の改善や工夫。
			総合評価	○	学びの共同体による活動のほか、各校において様々な安全教育を行うことができた。 また、ネット犯罪やトラブル防止については、ネットパトロールを実施したほか、いじめに関する意識調査により状況把握に努め、いじめ・不登校等対策委員会において情報共有及び対策に係る検討協議を行った、	安全教育については、形骸化しないよう不断の見直しを行う姿勢が必要である。 また、ネット上のトラブルに巻き込まれることのないよう、引き続きネットパトロールを実施する必要がある。

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価シート

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領 域	主要課題及び目標	施 策 項 目	評 価			
			達成度	主な取組状況	課題と問題点	
	[小規模・複式教育]	地域、教員、子ども同士のつながりと、少人数のメリットを生かした教育活動が小規模校の利点であることを踏まえ、中学の学びにおいても臆せず自ら考え、意見を交わし、ともに学び合える力を身に付けさせるため、学年間や小中連携などの活動を推進。	総合評価	◎	河北小において、校内行事や校外学習、外部講師による授業など、日常の様々な教育活動において、「感想発表タイム」を設け、自分の言葉で意見や感想を発表する機会を意識的に設定した。 また、全校集会で学年による発表や作文発表を定期的実施した。 その他、上小との合同学習や合同行事を通して小中連携や児童間交流が図られた。	小中連携については参観日での職員による授業参観のみとなっており、児童生徒間交流等、実施可能な活動を検討する必要がある。
	[特別支援教育]	障がいのある子どもたちの可能性を伸ばし、育むべき資質、能力を確実に身に付けることができる教育の推進が必要であることを踏まえ、児童生徒一人ひとりが充実した学校生活を過ごすことができるよう「特別支援教育支援員・介助員」などを配置。	上ノ国小	○	子どもたち個々の特性を生かした特別支援教育の充実に向け、関係機関とも連携を取りながら進めてきている。また特別支援教育支援員・介助員との日々の打ち合わせを重視し、子どもたちが充実した学校生活を送れるようにしていた。	普通学級における特別な配慮を要する子どもたちが増加しているように感じる。保護者の理解を得ることや、学校として、限られた人員の中で、どのような体制を組むか、苦慮している点が課題である。
			河北小	◎	コーディネーターを中心に、校内の特別支援教育の方向性が明確になり、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を基に保護者と連携した教育が推し進められた。 第71回北海道特支学級研究連盟全道大会檜山・江差大会において合同学習の授業公開を行い、広く実践を紹介した。 特別支援教育支援員の配置により、学習指導・生徒指導において成果を発揮している。	特になし
			上ノ国中	○	保小中高と連続性のある多様な学びの充実・整備を徐々に進め、一人一人の特性に配慮した指導を行うことができた。	関係機関との連携強化
			総合評価	○	特別支援教育に対する教員の専門性の向上を目指して、道教委に対し全ての学校でパートナーティーチャアの派遣を要請し、校内研修に努めた。 普通学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒の多様な特性に対応するため、特別支援教育支援員・介助員を配置し、学習活動上のサポートを行った。	各校ともに複数の障害種の学級を開設しているが、その障害種に応じた教員の専門性の向上が引き続き求められる。 普通学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒が増加する傾向にあるが、一方で特別支援教育支援員等の担い手不足が課題となっている。
[読書活動]	「第三次上ノ国町子ども読書推進計画」に基づき、読書習慣の定着に向けた啓発活動や、発達段階に応じて読書に親しむ機会の提供づくりに活動する読み聞かせボランティアグループを支援。	上ノ国小	△	「もこもこ」の皆さんによる読み聞かせ等、読書習慣をつけるための取り組みを行っている。	読書習慣の定着も大切だが、学習における本の活用という部分では、課題が残る。ICTありきではなく、子どもたちが自分たちにあった方法で、知識を得ていくという点で、もう少し、本に触れる機会を意図的に増やしていかなければならない。そのような取り組みが、読書の習慣づけにもつながるのではないか。	

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価シート

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領域	主要課題及び目標	施策項目	評価				
			達成度	主な取組状況	課題と問題点		
			河北小	○	「読書通帳」による記録化により、読書への意欲向上を図った。 週2回の朝読書や給食後には先生も含めた読書タイムを設定し、読書時間の確保が図られた。 読み聞かせサークル「もこもこ」による年3回の読み聞かせにより、絵本の楽しさに触れることができた。	家庭における読書時間の確保が課題。	
			上ノ国中	△	朝読書の時間を設け、読書に対する意識の向上を図った。	朝読書が読書の契機とはなったが、依然として読書量は少ない。	
			総合評価	△	各校においては、朝読書の時間を設けるなどの取組みにより、読書習慣の定着に努めた。 絵本読み聞かせサークル「もこもこ」による「読み聞かせ巡回」や巡回図書を活用により、読書の楽しさ・豊かさに気づかせる取組を行った。	家庭内において動画視聴、ゲーム、SNS等を利用する割合が高く、読書時間のみならず学習時間にも支障をきたしている。	
	[体力づくり、健康づくり]	「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果などを基に、バランスのとれた体力、運動能力を身に付けるため、楽しく遊ぶことなどを通して無理なく体力向上を図るための授業づくりを推進。		上ノ国小	◎	休み時間も含め、子どもたちは外で遊ぶ習慣がついている。そのことが体力の向上にもつながっていると考える。	体力については、個人差が大きい。質問とはズレるかもしれないが、放課後や休日、学校まで遊ぶ小学生や保護者と一緒の幼児も多い。日常的な体力・健康づくりという点での環境整備を考えると、学校前の遊具等の充実が図られると、更に子どもたちの外遊びも増えていくのではないか。
				河北小	◎	少人数でも楽しめるような授業改革を行った。 体力テストの前には全国平均値を提示するなど、明確な目標設定による意欲向上を図った。 運動会、水泳学習、マラソン大会、縄跳び大会、スキー学習及びスキー遠足など、体育的行事を計画的に配置し、体力の維持向上に努めた。 年間を通して計画的な「体力づくり」を実施し、日常的な体力の維持向上に努めた。	登下校時は車での送迎が半数以上おり、「歩く」機会が少なく、スポーツ少年団活動に関わらない児童も多い。 滑り台が新設されたが、他の固定遊具の経年劣化が見られ、危険性は高い。
				上ノ国中	○	体力調査の結果を分析し、柔軟性・持久力が課題としてあげられ、体育の時間や部活動などで体操や持久走を取り入れ、継続的に行った。	日常的な運動習慣のための指導。家庭との連携による体力強化。
				総合評価	◎	全ての小学校において、体力・運動能力の向上に係る目標及び児童が自分なりの目標を設定したことにより、より高い意識で運動に取り組んだ結果、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」における体力合計点が男女ともに全国・全道平均を上回ることができた。 中学校においては、工夫を凝らした授業づくりに努めたものの、調査結果では体力合計点が男女ともに全国・全道平均を下回った。	引き続き、バランスのとれた体力・運動能力を身に付けるための授業づくりに努める必要がある。 学校遊具の経年劣化が見られることから、安全点検を行う必要がある。

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領 域		主要課題及び目標	施 策 項 目	評 価		
				達成度	主な取組状況	課題と問題点
スポーツと芸術・文化の活動推進	スポーツ活動の推進	町民が生涯にわたり健康ですこやかな生活を送るためのスポーツ活動の推進	各世代に応じた各種イベント、健康・体力づくりの拠点として、スポーツセンターを利用しているが、引き続きスポーツ人口の拡充を図るため、スポーツ推進員やスポーツ団体と連携し、スポーツ団体の育成と各種大会の開催などの支援に努める。	◎	誰もが気軽に健康・体力づくりに向けた取り組みのきっかけづくりや、軽スポーツの普及とスポーツに親しむ場の提供ため、健康作り教室の開催や、スポーツ推進委員と各スポーツ団体が連携し、スポーツフェスティバルを開催した。 また、スポーツ施設の適切な維持管理に努め、各種大会開催の支援に努めた。	中学校部活動の地域移行に伴い、部活動指導員の確保や地域からの指導者の掘り起こしが課題となっている。
	芸術・文化の推進	心と生活を豊かにする芸術・文化活動の推進	文化団体等との連携を図り、町民文化祭をはじめとする文化事業への支援を継続するほか、本町の歴史と文化にふさわしい講演や芸術鑑賞などの開催に努める。	○	文化協会への活動支援を行い、町民文化祭を開催することにより、文化活動の発表の場を提供するなど文化活動の啓発に努めた。 また、舞台芸術や音楽鑑賞に触れることの少ない町民に対し、芸術・文化鑑賞事業を行い芸術文化へ触れる機会の提供を図った。	文化協会の活性化と会員の増加に向け、地域でのサークル活動や個人での文化活動の人材の掘り起こしが課題となっている。
	町民図書室の充実	読書活動の推進	町民の知的ニーズへの対応と、利用促進のため計画的な蔵書収集を図るとともに、図書情報の積極的な広報活動や読み聞かせボランティアとも連携しながら、ブックスタート事業をはじめとした各世代に向けた読書活動の推進に努める。	◎	図書室の利用を促進するため、毎月町広報紙への新着本の掲載や、小中学校への図書便りを年5回発行するなど、図書情報の発信を図った。 また、ボランティアサークルとの連携により、ブックスタートや小学校での読み聞かせ、大型絵本などの読み聞かせイベント「えほんのひろば」を開催し、読み聞かせ用の紙芝居やエブロンシアターの素材提供を行い、活動の支援を図った。	活字離れが進む中、読書活動の啓発にボランティアサークルの協力が不可欠となっていることから、会員の拡充と担い手確保が課題となっている。
社会教育と生涯学習の振興	社会教育と生涯学習の振興	継続的な学習機会の提供及び充実並びに世代間連携	地区生涯学習推進会議及び社会教育諸団体と連携し、継続的な学習機会の提供と充実への取組みと世代間連携に努める。	○	持続可能な社会教育活動の推進のため、生涯学習出前講座を実施し、地域力の活用として、地域農業士を講師とした小学校の農業体験を行い、地域学習の一環とした。 また、各地区生涯学習推進会議においては、それぞれの地域の特色を生かした3世代交流事業を実施し、世代間連携に努めた。	地区生涯学習推進会議においては、役員等の高齢化による、担い手の確保が課題となっている。
	家庭教育の充実	幼児教育の向上	家庭教育については、コロナ禍による家庭の孤立化が進み、子どもを育てることが困難な社会となっているが、学校教育の始まりまでに育てほしい姿を共有し、保護者に対する学習機会や子育て情報の提供・相談などの支援に努める。	○	町PTA連合会の主催による教育講演会を、町学校保健会、町生涯学習推進本部の共催により、町内学校間や父母の連携・協力を密にし共通課題の解決や家庭教育の充実を図った。	講演会においては、参加者の固定化が問題とされ、参加者の拡大が課題とされる。

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領域	主要課題及び目標	施策項目	評価			
			達成度	主な取組状況	課題と問題点	
	子どもたちの健全育成について	未来を担う子どもたちの健全育成	子どもたちの健全育成については、人の接触を避ける生活環境の変化により、ストレスを抱える児童生徒も多いと思われるが、これからも学校、家庭、地域が連携し暖かく見守りながら非行防止に努める。	◎	教育委員会事務局において、放課の子ども居場所づくりとしてカムカムクラブを年間22回開催した。 また、各地区生涯学習推進会議においては、それぞれの地域の特色を生かし学校・家庭・地域が連携する実践活動を中核に創意工夫され、各地区において特色をもった事業が実施された。	子どもたちにさまざまな体験学習の機会を与え、家庭や地域住民が積極的に参加ができるよう、体験学習事業運営の人材確保が課題とされる。
	高齢者教育の充実	高齢者の生きがいづくりと健康づくり	高齢者の生きがいづくりと健康づくりについては、行動制限が緩和されたとはいえ、一堂に会することに抵抗感を示す方々も多いことから、軽スポーツや文化講座など可能な範囲での開催に努める。	○	生涯学習推進本部から各地区生涯学習推進会議を通じて高齢者を対象とした軽スポーツ大会や健康体操教室などを開催し、地区生涯学習活動として高齢者の活動支援を行った。 また、スマートフォンの基本操作から安全に使用するための知識などを身につける学習機会を提供するため、スマートフォン講座を開催した。	高齢者から若年層へ郷土文化の継承に向けた取組について課題となっている。
	女性活動の充実	女性団体の活動支援	女性活動については、地域の生活文化向上に寄与する活動を続ける女性団体に対し、研修機会の充実などの支援に努める。	○	上ノ国町の女性団体活動（自主事業）への支援を行い、組織の維持に努めた。	地域女性団体の会員数の減少に伴い、会の存続についても検討している状況となっていることから、新規会員の獲得が課題となっている。
文化財の保存・保護、整備・公開	文化財の保存・保護、整備・公開	まちづくりの中核となり、多くの町民から親しまれる歴史遺産の保存・整備・公開活用	平成22年度策定の「国指定史跡上之国館跡 花沢館跡・洲崎館跡・勝山館跡」保存管理計画に基づき、史跡及び史跡に関わる構成要素の適切な保存管理と整備・公開活用の推進に努める。	○	「史跡上之国館跡 花沢館跡・洲崎館跡・勝山館跡」の草刈、草取り、支障立木の除去を行い、史跡を通年で散策できるよう努めている。	花沢館跡・洲崎館跡・勝山館跡の三館をつなげるサインや出土品を展示する資料館の整備が必要である。 また、勝山館跡の過去に整備した箇所が老朽化しているため、再整備の必要性が生じている。
			「史跡上之国館跡（花沢館跡・勝山館跡）整備活用基本計画」に基づき、国の指針に沿って史跡の保存活用に努め、地域の核となる場所づくりに取り組む。	◎	「史跡上之国館跡（花沢館跡・勝山館跡）整備基本計画」に係る整備検討委員会2回を開催している。 外部の有識者及び町民からの意見を集約し、令和5・6年度で策定する「花沢館跡整備実施設計」の検討を行った。	整備活用基本計画に沿って、史跡の維持管理及び資料館の整備に係る経費や運営体制の強化について推進する必要がある。
			「重要文化財北海道上之勝山館跡出土品」（921点）について、劣化が危惧される指定品の保存に鋭意取り組むと共に引き続き出土品の活用に努める。	◎	重要文化財指定品の保存修理は国庫補助を受け、委託先に外注して実施した。木製品39点を対象として保存箱8点の製作及び保存修理5点を行い、適切な保管に努めた。	重要文化財を保管する上ノ国町役場庁舎2階の温度環境が一定でないことや書類と一緒に保管しているため、保管環境及び施設の整備をする必要がある。
			町内の遺跡等で行う開発行為や整備に伴う埋蔵文化財調査を実施し、埋蔵文化財の適正な管理を図る。	○	埋蔵文化財包蔵地で小型風車の建設が予定されている箇所において、試掘調査対応を5件実施した。 史跡上之国館跡のうち勝山館跡・洲崎館跡の整備事業を推進するため、文化財作業員5名を雇用して発掘調査を実施した。	開発行為から埋蔵文化財包蔵地を保護するため、開発行為を行う事業者へ周知を行う必要がある。 出土品を保管している「上之国館調査整備センター」が老朽化のため、改修する必要がある。

令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価

教育指針 「かかわりあい 学びあい 育ちあう 学びの共同体」

上ノ国町教育委員会

領 域	主要課題及び目標	施 策 項 目	評 価		
			達成度	主な取組状況	課題と問題点
		貴重な文化遺産に対する理解を促すため、重要文化財上國寺本堂、勝山館跡ガイダンス施設や旧笹浪家住宅の管理公開、教育・観光両面からより一層の利活用を図る。	○	文化財施設では、町内のガイド団体と連携して観光客の受入れを行い、入館者の増加に努めている。 今年度は、昨年度とほぼ同様の入館者数で旧笹浪家住宅が1,069名（前年度1,096名）、勝山館跡ガイダンス施設が3,212名（前年度3,450名）となっている。	文化財施設では、旧笹浪家住宅の入館者数が勝山館跡ガイダンス施設と比較して少ないため、見学だけでなく体験も含めた施設の利活用が必要である。
		「連続歴史講座」の開催で地域の歴史文化の情報発信に努めると共に、各団体や各学校の「ふるさと学習」への活用等、教育・観光両面からより一層の利活用が図られるよう関係機関との積極的な連携に努める。	◎	「連続歴史講座」は、「かみのくにSDGS歴史体験（5/4）」、「木古内高齢者大学対応（7/22）」、「戦国水運体験（7/22）」、「洲崎館跡現地見学会（10/1）」、「上之国三館スタンプラリー（10/1）」を実施し、計66名が参加している。 「ふるさと学習」では、小中学校で地域の歴史・自然が授業に取り上げられ、年間9回授業での対応をしている。	歴史講座やイベントが勝山館周辺に集中しているため、その他の地区で新たな視点における取組みを実施する必要がある。 また、関係する町内外の関係機関と連携を強化して交流人口の増加を図る必要がある。
		町史編さんにあたり、編さん委員会を開催し、町内の資料の悉皆調査を行い、「上ノ国町史」の刊行に努める。	○	上ノ国町史編さん委員会の調査を6回開催し、町内の歴史文化に係る聞き取りや資料の確認を行った。外部の有識者で構成する上ノ国町史編集委員会を2回開催し、「上ノ国町史」の今後の刊行内容について検討を行った。 また、デジタルアーカイブ「かみのくにまるっこまん!! デジタルミュージアム」を公開し、町内外への普及啓発に努めている。	町内外に点在する未指定文化財の所在確認や聞き取り調査が必要である。 また、町史のフルテキストデータをデジタルアーカイブに搭載するため、アーカイブトップページ等のコンテンツの拡充が必要である。

注) 「達成度」の欄には、達成できたものは◎、おおむね達成できたものは○、若干課題が残るものは△、達成できなかったものは×を記入すること。